

講習の名称：日本と中国の金石学

担当講師：石田 肇（教育学部教授）

講習開講日：平成21年10月31日（土）

時間数：6時間

主な受講対象者：

小・中・高等学校教諭。社会科の教諭だけでなく、身近な金石に関心のある方の受講を期待する。

キーワード：金石学、歴史考古学、石碑、墓誌、梵鐘

講習の概要：

金石学とは、広義には紙以外のものに施された文字を、狭義には石や金属に施された文字を扱う学問であるが、20世紀になって、中国・日本で様々な分野、ことに日本では木簡、中国では竹簡や墓誌など新しい資料（史料）が発見され歴史の書き換えがおこなわれている。そこでこれらについて簡単にのべ、拓本の取り方などにも言及し、身近な金石を取りあげることにする。

講習の展開：

- 第1時限 金石学の概要
- 第2時限 金石学の新しい成果
- 第3時限 拓本の取り方
- 第4時限 身近な金石

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）

特になし。ただし、下記の参考文献などのような書物を1冊以上読んでおくことが望ましい。

授業の形式：講義形式。受講者数、天候の条件によっては実際に拓本を取ることもある。

履修認定試験：

論述形式の筆記試験。講義を通じて受講者が金石学を授業などにどう生かすかを問いたい。

テキスト・参考文献：

参考文献として

石田 肇「金石学」(杉村邦彦編『中国書法史を学ぶ人のために』所収、世界思想社、02年)

鐘江宏之『地下から出土した文字』(山川出版社 日本史リブレット15 07年)

千々和到『板碑と石塔の祈り』(日本史リブレット31 07年)

前沢和之『古代東国の石碑』(日本史リブレット72 08年)